

2020年度 修士論文

中学生・高校生のスポーツ継続要因に関する研究

—柔道競技者を対象に—

The Continuation factor of Judo Practice

—in Middle school and High school Students—

早稲田大学 大学院スポーツ科学研究科

スポーツ科学専攻 スポーツクラブマネジメントコース

5020A306-4

大島 茂男

Shigeo OSHIMA

研究指導教員：間野 義之 教授

目次

第1章	研究の背景	1
第2章	先行研究	2
2-1	柔道を含むスポーツ活動からの離脱・非継続要因の分析	2
2-2	柔道を含むスポーツ活動の継続要因の分析	2
第3章	研究の目的	3
第4章	研究方法	4
4-1	調査対象者	4
4-2	調査期間	4
4-3	手続き	4
4-4	調査内容	4
4-5	分析方法	5
4-6	倫理的配慮	6
第5章	結果	7
5-1	アンケート調査結果(単純集計)	7
5-2	対象者の属性	9
5-3	クロス検定の結果	10
5-4	t検定の結果	12
5-5-1	ロジスティック回帰分析の結果(中学生)	13
5-5-2	ロジスティック回帰分析の結果(高校生)	14
第6章	考察	16
6-1	結果の整理	16
6-2	結果についての考察	16
第7章	結論	19
第8章	研究の限界	20
第9章	引用・参考文献	21
巻末資料	(資料1～7)	24

第1章 研究の背景

近年、子どもの体力・運動能力の低下傾向が顕著になり、スポーツの実施者数も減少している¹³⁾。この問題を脱却するために、学校現場ではスポーツ実施や競技継続につながる学校体育²⁴⁾や運動部活動²²⁾のあり方が問われている。

スポーツの継続に関する先行研究で、金崎ら⁹⁾は、中学生・高校生を対象にスポーツ・コミットメントとスポーツ実施頻度及びスポーツ継続意図の関連を検討するための調査を実施した結果、スポーツ・コミットメントの得点が高い者ほど、スポーツ実施頻度が高いこと、さらに、今後もスポーツを継続していきたいという継続意図が高いことを明らかにしている。

これまで、柔道競技継続理由に関する研究については、中学生、高校生そして大学生を対象に行われたものがあるが、口頭発表^{20) 21)}にとどまっており、論文としての報告は非常に少ない。しかし、柔道の意識（イメージ）^{10) 7) 8) 18) 19)}や価値観についての研究はされており、本研究に重要な示唆を与えてくれるであろう⁴⁾。

柔道は、1882(明治15)年、嘉納治五郎が柔術の原理を研究して整理・体系化し、修身法（心身を鍛えること）、練体法（体力訓練）、勝負法（試し合い）、としての修行に加え、人間教育の手段として日本傳講道館柔道(以下、柔道という)を創始¹¹⁾したことに端を発し、現在、世界204カ国以上の国と地域に普及し、オリンピック採用競技となった¹⁾。しかし、近年は柔道競技者人口の減少(資料1)が大きな問題となっている。

2012年の中学校での武道必修化²³⁾は、日本柔道界にとって柔道精神の普及、そして競技者人口を増加させる絶好の機会であった。しかしながら、2013年に起きた柔道界の根底を覆す諸問題は、現在の柔道界の在り方自体を問われている状況である。全日本柔道連盟(以下、全柔連という)は「柔道人口の減少は極めて重大な事態」として、2020年10月に「競技力向上」、「普及」、「マーケティング」、「ガバナンス」に関する中長期的な基本計画を立てた¹⁵⁾。中でも、「普及」については、具体的な戦略として、学校に「柔道部がない」「柔道部があっても指導者がいない」ことを背景に、「中学生、高校生において特に登録者数減少が著しいので、まずはこの年齢の登録者減少に歯止めをかけることが課題となる」と述べている。

このような状況下で、栃木県の中学校・高校には柔道競技者の人口減少(資料2)により休部や廃部を余儀なくされているチームが多数存在する。このままでは、近い将来、栃木県をはじめ日本柔道界の存続が危ぶまれる非常に厳しい状況が見込まれる。当初は、この現象に対し少子化¹²⁾の影響、重大事故⁶⁾の発生件数の多さ、公立中学校の柔道部の減少・廃部²⁵⁾及び柔道専門の指導者不足¹⁴⁾等が原因で、中学生・高校生の柔道競技継続者が減少していると認識していた。しかし、はたして柔道を継続しない要因はそれだけなのであろうか。

そこで、本研究では栃木県内の中学生・高校生の柔道競技者の実態を把握し、いかなる環境において、どのような継続意図をもって、どんな将来像を描いて柔道競技を継続しているのか、柔道継続に導く要因を明らかにしたいと考え本研究に取り組んだ。

第2章 先行研究

2-1 柔道を含むスポーツ活動からの離脱・非継続要因の分析

学生のスポーツ活動からの離脱・非継続要因に関する先行研究において、稲地ら⁵⁾は、中学生の運動部活動退部者の中核的因子として、部の統率力や計画性などの部機能の低下や技術向上が停滞した結果レギュラーになれなかったことを挙げている。また、青木²⁾は、高校生の運動部活動退部の理由として、「人間関係の軋轢」、「練習の辛さ（厳しさ）」、「勉強との両立」及び「他にしたいことがある」ことなどが見出されたとし、またこれらとは別に「自分の意志が弱い」という内罰的理由が大きな要因であるとしている。

さらに、全柔連が平成30年に中・高生に行ったアンケート¹⁷⁾によれば、柔道をやめた理由として他の活動への転換及び進学先の柔道部の不在が大きな理由を占めていた。

2-2 柔道を含むスポーツ活動の継続要因の分析

一方、スポーツ活動の継続要因に関する先行研究において、石原³⁾は高校生や大学生の柔道競技者を対象にした研究で、内なる感情により着目しているが、例えば、「柔道が好き」、「練習が楽しい」、「もっと強くなりたい」などの感情（柔道愛好要素）、「目標にしている選手がいる」、「昇段したい」、「出場したい大会がある」などの目的・目標（柔道到達目標要素）及び「家族との絆」、「仲間との絆」、「指導者との絆及び指導者を尊敬する気持ち」などの内的環境（柔道内的環境要素）等が柔道継続要因であるとし、これら感情を惹起することができないほどの厳しい指導では継続要因とはならないと示唆した。

また、射手矢ら⁴⁾は18歳から80歳までの男子柔道実践者の柔道継続要因を明らかにするために、柔道実践者（柔道群）と柔道以外のスポーツ種目を行っている者（非柔道群）を対象にアンケート調査を実施し、因子分析を行った。その結果、柔道群と非柔道群の継続理由における因子構造の共通点は、「人間形成」、「好感情」、「身体能力の向上または体力の向上」と述べている。また、相違点は、柔道群では、「格闘技への好奇心」と「精神性の向上」の2因子があるのに対し、非柔道群では、「自己実現」と「快感情」の2因子があるという点であった。柔道群の特徴は抽出された因子の中には武道的因子は含まれるが、快感情因子が含まれないという点であった。

加えて前述の全柔連の調査によれば、もう一度柔道を続けようとする要素として、自分の実力に見合う練習・試合環境の存在や気の合う仲間の存在が大きいとした。

第3章 研究の目的

本研究は、中学生・高校生のスポーツ継続と関連のある要因を、柔道競技者を対象に明らかにすることを目的として、仮説の検証を試みる。

[仮説]中学生・高校生の柔道継続要因に、石原が唱えた柔道継続因子である「柔道愛好」、「柔道到達目標達成」及び「柔道内的環境要因」は影響するのか？

第4章 研究方法

4-1 調査対象者

調査対象者は、栃木県中学校体育連盟柔道専門部（専門部長：渡邊康成氏）に加盟している、50校の中学校の柔道部に所属している生徒と栃木県高等学校体育連盟柔道専門部（専門部長：軽部幸治氏）に加盟している、46校の高校の柔道部に所属している生徒とした。中学校・高等学校とも各校柔道部顧問に協力依頼し、65校より承諾を得ると同時に808名（回収率82.0%）の回答が得られた。

有効回答者数は、属性以外の項目未記入を除いた中学校で471名、高校で320名、両者合わせて791名を有効回答とした（有効回答率80.0%）（表1）。以後は、有効回答者のデータを集計や統計分析の対象とする。

4-2 調査期間

アンケート調査は、2020年11月7日から27日にかけて実施された。

4-3 手続き

調査は、アンケート調査とし、郵送法を用いた。配布については、学校単位で部員数分の調査紙を郵送し、回収は、各校柔道部顧問が取りまとめ、その後著者の自宅へ郵送するよう依頼した。また、回収率を高めるため、締め切り日後に各学校長ならびに柔道部顧問宛に礼状を送付し、締め切り日後でもアンケート調査紙を受け付ける旨を連絡した。

4-4 調査内容

(1) 調査紙の設計

石原³⁾が研究時に用いた調査紙の内容に、中学生、高校生の柔道継続要因を明らかにするための調査項目の追加・修正により、本調査用の調査紙（資料4）は以下のように作成した。

はじめに、柔道継続を促す因子（資料3）の、「入門のきっかけ」、「柔道入門動機」、「柔道愛好」、「家族支援」、「柔道到達目標達成」、「精神性向上」、「体力の向上」、「性格」、「周囲との融和」の9因子85項目から、柔道継続要因を明らかにするため、「問1. 性別」、「問2. 現学年」、「問3. 柔道開始時期」、「問4. 柔道開始場所」、「問5. 柔道開始理由18項目」、「問6. 柔道継続理由18項目」、「問7. 柔道から得たもの18項目」、「問8. 自分自身の性格18項目」、「問9. 今後の柔道継続意志」、「問10. 問9で今後の柔道継続意志がない者と、どちらとも言えない者を対象に、今後の柔道継続のための条件8項目」を加えた。

次に、問5から問10までの各項目の回答肢は、「1: 全くあてはまらない、2: あてはまらない、3: どちらでもない、4: あてはまる、5: 大変あてはまる」の5段階によ

るリッカート簡便法を用いた自己評定で行い、評価値が高いほど継続因子獲得レベルが高いと解釈される。回答に際しては、柔道継続に関する質問事項に対して「以下の理由に対し、最も当てはまるものの番号に○を付けてください」との教示が行われた。

(2) 調査項目の追加・修正

なお、調査内容は、石原³⁾の研究時に用いられた調査紙の内容に、自分自身の柔道経験及びスポーツ科学を専門とする大学教員4名（柔道を専門とする大学教員1名を含む）、及びスポーツ科学を専攻する大学院生15名による2段階の検討がなされた。

変更の例としては、中学生・高校生ともに同一の質問事項のため、中学生にも回答が平易にできるように文章表現を修正したほか、石原の唱えた、柔道継続を促す因子の「柔道内的環境要素」を本研究では「家族支援」と「周囲との融和」に分けて、直接的または間接的な関わりなのかを明確にするための項目とした。また、「動機付け要素」を本研究では「柔道入門きっかけ」と「柔道入門動機」に分けて、他者からの働きかけなのか自らの意思なのかを明確にするための項目とした。「問9. 今後も柔道が続けたいと思いますか？」に「いいえ」、「どちらともいえない（現段階ではわからない）」と回答した人向けに「問10. 今後も柔道が続けるための条件」8項目を新規に追加して、現時点で「柔道継続意志のない者」と「どちらともいえない者」に柔道継続するために必要な条件を尋ねる項目を追加した。

以上の追加・修正を経て作成したものを本研究用の調査紙として使用することとした。

4-5 分析方法

調査項目のうち、従属変数を「柔道継続意図の有無」、独立変数を「柔道継続因子」とした。分析手順としては、まず、アンケート調査結果を単純集計し、その後、対象者の属性を明らかにした。次にクロス集計後、 χ^2 検定を行った。そして、t検定により従属変数と各変数との関連を記述的な統計から分析し、その分析結果と仮説に基づき、さらに、従属変数に対して、影響が予測できる他の変数の影響を統制しつつ、それぞれの独立変数の影響力を分析することができるロジスティック回帰分析を中学生と高校生に分けて行い、オッズ比と95%信頼区間を算出した。解析にあたり、「柔道継続意図あり」を柔道継続意図あり群、「柔道継続意図なし」を柔道継続意図なし群に設定した。またロジスティック回帰分析におけるモデルの適合度の検定には、Hosmer-Lemeshow検定を用いた。なお、本調査における全ての解析は、有意水準を5%とし、統計ソフトのIBM SPSS Statistics 26を使用した。

4-6 倫理的配慮

調査紙によるアンケート調査には、早稲田大学「人を対象とする研究に関する倫理規定施行細則」及び早稲田大学「人を対象とする研究に関する倫理規定施行細則」に準じて倫理的配慮がなされた。

具体的には、アンケート用紙の冒頭に調査に関する教示文を示して、アンケート用紙そのものは無記名方式で実施された。

調査の実施にあたっては、統計的に処理するために個人を特定したり、個人の回答が他人に知られたりすることがないこと、資料の厳重管理により個人情報保護されプライバシーが侵害されないことを明記した。

さらに、本来アンケート調査時に同意書が必要であるが、アンケート用紙の返信をもって同意を得ることとした。なお、本調査は栃木県柔道連盟及び栃木県中学校体育連盟柔道専門部ならびに栃木県高等学校体育連盟柔道専門部の承認を得て実施された。

第5章 結果

5-1 アンケート調査結果（単純集計）

資料5はアンケート調査の「問5から問10まで」の結果を集計したものである。各項目について、中学生と高校生の回答が「大いに当てはまる」、「当てはまる」であったものの合計を総回答者数で除しそれを肯定率として算出した。

なお、「問1から問4」は、「対象者の属性」として次項で結果を示す。

問5 柔道を始めた理由

資料5に示すとおり、柔道を始めた理由、全18項目について尋ねた。（質問紙参照）

柔道を始めた理由の上位3つは、「体を鍛えて強くなりたかった62.7%」、「礼儀を身につけるため50.8%」、「心身ともに強くなりたくて50.1%」であった。

問6 柔道継続理由

柔道継続理由、全18項目について尋ねた。（質問紙参照）

柔道継続理由の上位3つは、「仲間同士の関係が良い84.8%」、「もっと強くなりたい84.7%」、「家族が応援してくれている79.6%」であった。

問7 柔道を通して得たもの

柔道を通して得たもの、全18項目について尋ねた。（質問紙参照）

柔道を通して得たもの上位3つは、「基礎体力・筋力が向上した91.5%」、「仲間との絆87.0%」、「運動能力の促進85.2%」であった。

問8 自分自身の性格

自分自身の性格、全18項目について尋ねた。（質問紙参照）

自分自身の性格上位3つは、「負けず嫌い64.1%」、「思いやりがある58.7%」、「気分屋54.0%」であった。

問9 今後の柔道継続意思

（1）今後も柔道を継続の場合

中学生男子・中学生女子・高校生男子・高校生女子それぞれの、今後も柔道を継続すると回答した者の割合は、順に32.4%、10.4%、33.1%、3.4%であった。中学生男子と高校生男子の約3割が今後も柔道を継続していく意思を持っている。また、高校生女子の継続者が極端に少ない。（資料6）

（2）今後は、柔道を継続しない場合

中学生男子・中学生女子・高校生男子・高校生女子それぞれの、今後は柔道を継続しないと回答した者の割合は、順に9.7%、7.6%、10.6%、8.7%であった。中学生男子と高校生男子の約1割が今後は、柔道を継続しない意思を持っている。（資料6）

(3) 今後、柔道を継続するか、どちらともいえない(現段階では分からない)場合
中学生男子・中学生女子・高校生男子・高校生女子それぞれの“どちらともいえない(現段階では分からない)”と回答した者の割合は、順に26.3%、13.3%、32.5%、11.5%であった。高校生男子の約3割は、今後、柔道を継続するか、どちらとも言えない(現段階では分からない)意思を持っている。(資料6)

問10 問9で「いいえ」、「どちらとも言えない」と答えた者の、今後柔道を続けるための条件

資料7は、アンケート調査の「問10」の結果を集計したものである。各項目について、中学生と高校生の回答が「大いに当てはまる」、「当てはまる」であったものの合計を総回答者数で除しそれを肯定率として算出した。

(1) 「いいえ」と回答した群

今後、柔道を継続する条件の上位3つは、「勝ち負けにこだわらず、みんなで仲良く練習できる環境3.3%」、「勉強や仕事との両立2.0%」、「自分の実力にあった練習環境1.9%」であった。

(2) 「どちらとも言えない」と回答した群

今後、柔道を継続する条件の上位3つは、「勝ち負けにこだわらずみんなで仲良く練習できる環境6.1%」、「勉強や仕事との両立5.4%」、「自分の実力にあった練習環境4.7%」であった。

※「いいえ」と回答した群と、「どちらとも言えない」と回答した群の、今後柔道を継続する条件の上位3つは、全く同じ結果になった。

5-2 対象者の属性

表1 対象者の属性

		n	%
全体	対象	791	—
学校	中学校	471	59.5
	高校	320	40.5
学校タイプ	公立	608	76.9
	私立	183	23.1
性別	男性	567	71.7
	女性	224	28.3
学年	中学1年	173	21.9
	中学2年	185	23.4
	中学3年	113	14.3
	高校1年	126	15.9
	高校2年	115	14.5
	高校3年	79	10.0
	小学校入学前	121	15.3
	小学校低学年	150	19.0
柔道開始時期	小学校高学年	109	13.8
	中学校	382	48.3
	高校	29	3.7
	町道場	356	45.0
柔道開始場所	地元公立校	384	48.5
	地元私立校	20	2.5
	学区外公立校	13	1.6
	学区外私立校	4	0.5
	その他	14	1.8

本研究における対象者(n=791)の属性を、表1に示した。これは、アンケート調査の「問1から問4」までの結果である。学校種別(中学校・高校)は、中学校59.5%、高校40.5%で中学校が多い。学校経営形態(公立・私立)は、公立校76.9%、私立校23.1%で公立校が多い。性別は、男性71.7%、女性28.3%で、男性が多い。学年は、中学1年生21.9%、中学2年生23.4%、中学3年生14.3%、高校1年生15.9%、高校2年生14.5%、高校3年生10.0%の割合で中学3年生と高校3年生が少ない。柔道開始時期は、小学校入学前15.3%、小学校低学年19.0%、小学校高学年13.8%、中学校48.3%、高校3.7%であった。小学校入学前・小学校低学年及び中学校入学時に柔道を開始する割合は、82.6%であった。柔道開始場所は、町道場45.0%、地元公立校48.5%、地元私立校2.5%、学区外公立校1.6%、学区外私立校0.5%、その他1.8%で、町道場と地元公立校から開始する割合は、93.5%であった。

5-3 クロス検定の結果

表2に、目標変数（柔道継続意図の有無）と独立変数（分析対象者の属性）との関係についてクロス検定の結果をまとめた。有意差は χ^2 検定によるものである。

表2 クロス集計表

柔道継続因子	対象	継続意図あり		継続意図なし (どちらともいえない)		合計		χ^2 値	有意確率
		n	%	n	%	n	%		
全体		—				791			
学校	中学校	202	63.3	269	57.0	471	59.5	3.168	0.075
	高校	117	36.7	203	43.0	320	40.5		
学校運営形態	公立	241	75.5	367	77.8	608	76.9	0.521	0.471
	私立	78	24.5	105	22.2	183	23.1		
性別	男性	259	81.2	308	65.3	567	71.7	23.817	0.000
	女性	60	18.8	164	34.7	224	28.3		
学年	中学1年	99	31.0	74	15.7	173	21.9	30.805	0.000
	中学2年	59	18.5	126	26.7	185	23.4		
	中学3年	44	13.8	69	14.6	113	14.3		
	高校1年	51	16.0	75	15.9	126	15.9		
	高校2年	35	11.0	80	16.9	115	14.5		
	高校3年	31	9.7	48	10.2	79	10.0		
柔道開始時期	小学校入学前	59	18.5	62	13.1	121	15.3	27.822	0.002
	小学校1年次	38	11.9	36	7.6	74	9.4		
	小学校2年次	15	4.7	18	3.8	33	4.2		
	小学校3年次	22	6.9	21	4.4	43	5.4		
	小学校4年次	26	8.2	26	5.5	52	6.6		
	小学校5年次	17	5.3	14	3.0	31	3.9		
	小学校6年次	8	2.5	18	3.8	26	3.3		
	中学校入学時	122	38.2	251	53.2	373	47.2		
	中学校2年次	3	0.9	6	1.3	9	1.1		
	高校入学時	6	1.9	18	3.8	24	3.0		
柔道開始場所	町道場	164	51.4	192	40.7	356	45.0	24.137	0.000
	地元公立校	131	41.1	253	53.6	384	48.5		
	地元私立校	7	2.2	13	2.8	20	2.5		
	学区外公立校	4	1.3	9	1.9	13	1.6		
	学区外私立校	1	0.3	3	0.6	4	0.5		
	その他	12	3.8	2	0.4	14	1.8		

「柔道継続因子」の「性別」、「学年」、「柔道開始時期」、「柔道開始場所」の項目において、「柔道継続意図あり群」及び「柔道継続意図なし群」との群間に有意な差が見られた。

この結果、柔道継続意図のある者については、「性別」は男性81.2%、女性18.8%で、男性が多い。「学年」については、中学1年生が31.0%で一番多い。「柔道開始時期」については、中学校入学時38.2%、小学校入学前18.5%、小学校1年次11.9%の順で多い。柔道開始場所については、町道場51.4%、地元公立中学校41.1%の順であった。

次に、柔道継続意図のない者については、「性別」は男性 65.3%、女性 34.7%で、男性が多い。「学年」については、中学 2 年生が 26.7%で一番多い。「柔道開始時期」については、中学校入学時 53.2%、小学校入学前 13.1%の順が多い。柔道開始場所については、地元公立中学校 53.6%、町道場 40.7%の順であった。

5-4 t 検定の結果

表3に、目標変数（柔道継続意図の有無）と独立変数（柔道継続因子）との関係について t 検定の結果をまとめた。

表3 t検定

柔道継続因子	継続意図あり		継続意図なし（どちらともいえない）		t 値	有意確率
	平均	SD	平均	SD		
因子1：柔道入門きっかけ	2.308	0.801	2.104	0.792	3.539	0.000
因子2：柔道入門動機	2.543	0.896	2.358	0.803	2.965	0.003
因子3：柔道愛好	4.401	0.759	3.756	0.865	11.088	0.000
因子4：家族支援	4.373	0.740	3.890	0.921	8.151	0.000
因子5：柔道到達目標達成	2.989	0.716	2.268	0.687	14.234	0.000
因子6：精神性向上	4.277	0.655	3.870	0.772	7.712	0.000
因子7：体力の向上	4.444	0.624	4.100	0.773	6.890	0.000
因子8：性格	3.412	0.583	3.157	0.543	6.279	0.000
因子9：周囲との融和	4.453	0.607	4.064	0.743	7.766	0.000

「柔道継続因子」の全ての項目において、「柔道継続意図あり群」及び「柔道継続意図なし群」との群間に有意差が見られた。

この結果、各因子の平均値は、柔道継続の意図がある者と、柔道継続の意図がない者（どちらともいえないを含む）との群間で差があり、柔道継続の意図がある者は、全ての項目の「柔道継続因子」を持ち合わせていると解釈することができる。

5-5-1 ロジスティック回帰分析の結果（中学生）

表 4-1 に、単変量解析で関連が見られた変数について、中学生と高校生に分けて、変数間の影響を調整して解析するため強制投入法によるロジスティック回帰分析を行った結果をまとめた。

表4-1 多変量解析（ロジスティック回帰分析）の結果(中学生)

柔道継続因子	OR	95%CI	P
因子1：柔道入門きっかけ	0.796	0.566 - 1.120	0.191
因子2：柔道入門動機	0.878	0.610 - 1.262	0.481
因子3：柔道愛好	1.887	1.231 - 2.893	0.004
因子4：家族支援	1.129	0.771 - 1.653	0.532
因子5：柔道到達目標達成	2.451	1.627 - 3.692	0.000
因子6：精神性向上	1.264	0.713 - 2.238	0.423
因子7：体力の向上	1.016	0.610 - 1.692	0.953
因子8：性格	1.432	0.908 - 2.258	0.122
因子9：周囲との融和	0.913	0.546 - 1.526	0.728
性別	1.681	1.027 - 2.749	0.039
学年（中学1年）	2.208	1.188 - 4.104	0.012
学年（中学2年）	0.585	0.322 - 1.062	0.078
柔道開始時期（小学校入学前）	1.023	0.420 - 2.492	0.960
柔道開始時期（小学校低学年）	1.315	0.565 - 3.063	0.525
柔道開始時期（中学校）	0.308	0.074 - 1.278	0.105
柔道開始場所（町道場）	0.382	0.106 - 1.368	0.139
柔道開始場所（地元公立校）	1.010	0.319 - 3.191	0.987
定数	0.002		0.000
モデル係数のオムニバス検定（有意確率）	0.000		
Hosmer-Lemeshow検定（有意確率）	0.209		
Cox-Snell R ²	0.300		
Nagelkerke R ²	0.402		
分類テーブル	76.9		

回帰式の有意性を示すオムニバス検定による有意確率は 0.000 となり、さらに Hosmer-Lemeshow 検定による有意確率は 0.209 であることからモデルは適合している。寄与率にあたる Cox-Snell R² と Nagelkerke R² を併せて確認すると、回帰式の寄与率は 0.300 から 0.402 と考えることができる。また、従属変数の的中率を示す分類テーブルの数値は 76.9% であった。オッズ比を確認すると、「柔道愛好」（OR=1.887、95%CI:1.231-2.893）、「柔道到達目標達成」（OR=2.451、95%CI:1.627-3.692）、「性別」（OR=1.681、95%CI:1.027-2.749）、「学年（中学1年）」（OR=2.208、95%CI:1.188-4.104）は、柔道継続意図が高い結果が示された。

これにより、中学生で柔道継続意図がある者は、「柔道愛好」、「柔道到達目標達成」、「性別」、「学年（中学1年）」因子との関連が見られる結果になった。

また、基本属性的な変数（学年（中学2年）、柔道開始時期、柔道開始場所）は、有意差がない結果になった。

5-5-2 ロジスティック回帰分析の結果（高校生）

表 4-2 に、単変量解析で関連が見られた変数について、中学生と高校生に分けて、変数間の影響を調整して解析するため、強制投入法によるロジスティック回帰分析を行った結果をまとめた。

表4-2 多変量解析（ロジスティック回帰分析）の結果（高校生）

柔道継続因子	OR	95%CI	P
因子 1：柔道入門きっかけ	1.194	0.778 - 1.832	0.417
因子 2：柔道入門動機	0.566	0.380 - 0.842	0.005
因子 3：柔道愛好	0.811	0.490 - 1.343	0.416
因子 4：家族支援	1.902	1.108 - 3.265	0.020
因子 5：柔道到達目標達成	6.244	3.435 - 11.351	0.000
因子 6：精神性向上	1.439	0.68 - 3.045	0.341
因子 7：体力の向上	1.280	0.622 - 2.635	0.502
因子 8：性格	1.422	0.728 - 2.778	0.303
因子 9：周囲との融和	0.456	0.213 - 0.975	0.043
性別	6.745	2.934 - 15.508	0.000
学年（中学1年）	0.911	0.425 - 1.952	0.811
学年（中学2年）	0.759	0.350 - 1.644	0.484
柔道開始時期（小学校入学前）	1.071	0.404 - 2.839	0.890
柔道開始時期（小学校低学年）	0.969	0.400 - 2.347	0.945
柔道開始時期（中学校）	0.198	0.054 - 0.721	0.014
柔道開始場所（町道場）	0.359	0.081 - 1.592	0.178
柔道開始場所（地元公立校）	1.997	0.439 - 9.072	0.371
定数	0.001		0.000
モデル係数のオムニバス検定（有意確率）	0.000		
Hosmer-Lemeshow検定（有意確率）	0.363		
Cox-Snell R ²	0.317		
Nagelkerke R ²	0.434		
分類テーブル	79.4		

回帰式の有意性を示すオムニバス検定による有意確率は 0.000 となり、さらに Hosmer-Lemeshow 検定による有意確率は 0.363 であることからモデルは適合している。寄与率にあたる Cox-Snell R²と Nagelkerke R²を併せて確認すると、回帰式の寄与率は 0.317 から 0.434 と考えることができる。従属変数の的中率を示す分類テーブルの数値は 79.4%であった。オッズ比を確認すると、「柔道入門動機」（OR=0.566、95%CI：0.380-0.842）、「家族支援」（OR=1.902、95%CI：1.108-3.265）、「柔道到達目標達成」（OR=6.244、95%CI：3.435-11.351）、「周囲との融和」（OR=0.456、95%CI：0.213-0.975）、「性別」（OR=6.745、95%CI：2.934-15.508）、「柔道開始時期（中学校）」（OR=0.198、95%CI：0.054-0.721）は、柔道継続意図が高い結果が示された。

これにより、高校生で柔道継続意図がある者は、「柔道入門動機」、「家族支援」、「柔道到達目標達成」、「周囲との融和」、「性別」、「柔道開始時期（中学校）」

因子との関連が見られる結果になった。

また、基本属性的な変数（学年、柔道開始時期（小学校以前）、柔道開始場所）は、中学生同様に有意差がない結果になった。

第6章 考察

6-1 結果の整理

本研究は、中学生・高校生のスポーツ継続と関連のある要因を、柔道競技者を対象に明らかにすることを目的として、仮説の検証を試みた。調査・分析の結果は以下のとおりであった。

[仮説]中学生・高校生の柔道継続に、石原の唱えた「柔道愛好」、「柔道到達目標達成」、「柔道内的環境要因」は影響するのか？

[結果]3点とも、中学生・高校生の柔道継続に影響があることが明らかになった。

6-2 結果についての考察

(1) 本研究の知見の一つに、栃木県における中学生、高校生の柔道競技継続に関する実態の解明がある。アンケート調査の結果、中学生男子32.4%、中学生女子10.4%、高校生男子33.1%、高校生女子3.4%の者が、今後も競技継続意図を持っていることが明らかになった。また、「今後柔道を継続しない」と回答した群と「どちらとも言えない」と回答した群に、今後柔道を継続する条件を尋ねたところ、上位3位は「勝ち負けにこだわらず、みんなで仲良く練習できる環境」が9.4%、「勉強や仕事との両立」が7.4%、「自分の実力にあった練習環境」が6.6%と両群とも同一の結果になった。この結果は、石原の研究の「高校生・大学生の柔道継続要因」と類似した結果となった。

(2) 次に、クロス集計の結果、「柔道継続意図が高い」者は、中学一年生(31.0%)で小学校入学前または小学校1年次から町道場で柔道を開始した群と中学校入学時に公立中学校から柔道を開始した群に2分される。

そして、中学2年生になると、中学校入学時に公立中学校で柔道を開始した群の「柔道継続意図なし(どちらとも言えないを含む)」の割合が増加している。この現象は俗にいう中学・高校2年生の「中弛みの学年」と解釈することができるのではないだろうか。また、中学校入学と同時に柔道部に入部したものの、1年間は受身と体力づくりに明け暮れ、2年生になると町道場出身者の後輩に勝てず、挫折感を味わうのも中学2年生である。これらの要因が絡み、石原の唱えている「柔道が好き」、「練習が楽しい」という感情を喚起できなくなっているのではないだろうか。この中学2年生を柔道継続へと導く感情の喚起や指導方法等が柔道継続者を増やすカギを握っているのではないだろうか。

(3) また、多変量解析を中学生と高校生に分けて行った結果、中学生で柔道継続意図がある者は、「柔道愛好」、「柔道到達目標達成」、「性別」、「学年(中学1年生)」因子との関係が見られた。一方、高校生で柔道継続意図がある者は、「柔道入門動機」、「家族支援」、「柔道到達目標達成」、「周囲との融和」、「性別」、「柔道開始時期(中学校)」因子との関係が見られた。

次に、中学生だけにある柔道継続因子は、「柔道愛好」、「学年（中学1年生）」の2点である。また、高校生だけにある柔道継続因子は、「家族支援」、「周囲との融和」、「柔道入門動機」、「柔道開始時期（中学校）」の4点である。

そして、中学生、高校生共通の柔道継続因子は、「性別」、「柔道到達目標達成」の2点である。

両者の違いを考察すると、中学生だけにある「柔道愛好」の因子は、純粋に柔道が好きであり、練習が楽しく、もっと強くなりたいという内なる感情から湧き出る気持ちであると推察できる。一方、高校生では、中学生で見られた「柔道愛好」の因子が無くなっているのは、年齢が上がり精神的にも一歩大人に近づき、柔道継続に対して純粋に好きとか練習が楽しいという「愛好」から一歩進んで、自分自身の到達目標達成のための手段に心情が変化してきていると推察することができる。

また、高校生だけにある柔道継続因子の「家族支援」の因子は、柔道を継続できる環境を整えてくれている家族との絆があるという安心感であり、「周囲との融和」は、同じ目標・目的をもって活動している仲間との絆を深め、さらに、指導者との絆を深めるとともに、尊敬している指導者の元で、柔道を学ぶことができることに喜びを感じており、この仲間と指導者の存在は、柔道を継続していく上での精神的な支えであり、これらの人々に感謝を抱きながら柔道を継続していると解釈することができる。

そして、中学生・高校生共通の柔道継続因子の「柔道到達目標達成」の因子は、13歳から18歳までの幅広い年齢層の柔道競技者が持つ因子であり、各個人が自分自身の目標や目的の達成の為の因子であると解釈することができる。

これは、先行論文で射手矢らが唱えた「武道的因子」に該当するのではないだろうか。柔道という競技だけが持つ独自の因子で年齢に関係なく柔道競技者だけが持ち合わせる柔道を継続するうえで非常に重要な因子なのではないだろうか。

(4) 本研究は、石原、射手矢らの先行研究を支持する結果であった。これにより、中学生・高校生の柔道継続に「柔道愛好」、「柔道到達目標達成」及び「柔道内的環境要因」は影響することが今回の研究で明らかになった。

(5) 石原との先行研究との比較においては、柔道継続要因の因子の「柔道愛好要素」、「柔道到達目標要素」、「柔道内的環境要素」は、本研究の「柔道愛好」、「柔道到達目標達成」、「柔道内的環境要因」と同じ因子要素であり、石原の研究した「高校生・大学生の柔道継続要因」と類似した結果になった。これにより、高校生・大学生の柔道継続要因の因子が中学生・高校生にも影響があることが証明されて、新たな知見となった。

(6) 射手矢らとの先行研究との比較においては、柔道継続要因の因子の「人間形成」、「好感情」、「身体能力の向上または体力の向上」、「格闘技への好奇心」、「精神性の向上」は、本研究の「柔道愛好」、「柔道到達目標達成」、「柔道内的環境要因」と同じ因子要素であり、射手矢らの研究とも類似した結果になった。これにより、中学生から80歳までの男子柔道実践者の柔道継続要因に共通の因子要素があることが証明されて新たな知見となった。

(7) 今後の課題としては、今回明らかにできなかった小学生の柔道競技者の柔道継続理由を調査し、その背後にどのような要因があるのかを検討しなければならないだろう。仮説ではあるが、柔道という競技の特性上、小学生にも柔道継続要因の因子として、「柔道愛好」、「柔道到達目標達成」、「柔道内的環境要因」等があるのではないだろうか。さらなる研究は⁴⁾、柔道の独自性の理解を一層深めることができ、今後の柔道指導や生涯スポーツとしての柔道の普及・発展に役立つものと思われる。

第7章 結論

本研究では、中学生・高校生のスポーツ継続と関連のある要因を、柔道競技者を対象に明らかにすることを目的に、栃木県内の中学生・高校生 791 名を対象としてアンケート調査を行った。調査・分析の結果から、検証を試みた。

仮説は支持される結果となり、中学生・高校生の柔道継続要因として、「柔道愛好」、「柔道到達目標達成」及び「柔道内的環境要因」は影響することが明らかになった。

本研究は、全日本柔道連盟が 2020 年 10 月に「競技力向上」、「普及」、「マーケティング」及び「ガバナンス」に関する中長期的な基本計画¹⁵⁾を立てて以降、具体的な戦略として掲げた、学校に「柔道部がない」「柔道部があっても指導者がいない」ことを背景に、「中学生、高校生において特に登録者数減少が著しいので、まずはこの年齢の登録者減少に歯止めをかけることが課題となる」と述べている中で、初めて中学生、高校生のスポーツ継続要因を、県単位での研究ではあるが柔道競技に焦点をあてたものであり、研究結果は今後、全日本柔道連盟が、中長期的な基本計画の「普及」を図る上で、「全柔連登録者数の減少を、当該年齢人口の減少と同程度に止める」という目標を達成するための重要なデータとなるであろう。

今回の研究で明らかになった、中学生、高校生の柔道競技の継続要因を踏まえて、今後、エビデンスに基づいての指導方法の確立や効果的な事例研究等を全柔連と関係機関と協力しながら具体的な提言に繋げていくことで、中学生・高校生の柔道競技継続者が増加することを祈願したい。

第8章 研究の限界

本研究の限界として、小学生の柔道競技継続要因の調査が出来なかった点に言及したい。小学生の柔道競技者人口は、ここ10年間、35,000人前後で推移しているが、多くの児童が中学校入学時に競技を非継続、または他の競技に転向している。

この事実を踏まえ、本来は、小学生から、中学生そして高校生への関連した柔道競技の継続要因を明らかにする研究を考えていたが、新型コロナウイルスの影響もあり、県内における全ての小学校、中学校、高校の試合が中止になったため、当初、予定していた小学生へのアンケート調査を実施できず、今回は中学生・高校生に限定した研究にとどまった。

また、小学生の低中学年の子どもへの質問紙によるアンケート調査の難しさも浮き彫りになった。保護者と一緒に回答できるような質問紙の設計や保護者の意向が入らない回答方法等の熟考が不可欠である。今回の研究対象者は、精神的な成長の限界と相まって中学1年生が年齢的な下限であろうと考えられる。

第9章 引用・参考文献

- 1) IJF ホームページ、<https://www.ijf.org/countries> (2021.1.7 最終閲覧)。
- 2) 青木邦夫 (2000) 「高校運動部員の部活動継続と退部に影響する要因」 体育学研究, 34 卷 89-100.
- 3) 石原智恵子、2018、「高校生・大学生の柔道競技継続に関する研究」順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 修士論文.
- 4) 射手矢岬, 村田直樹, 高橋進, Thierry COLIN、2011、「柔道実践者の継続に関する研究」 武道学研究, 44-(1):13-23.
- 5) 稲地裕昭、千駄忠至、1992、「中学生の運動部活動における退部に関する研究：退部因子の抽出と退部予測尺度の作成」 体育学研究, 37 卷 55-68.
- 6) 内田良、2013、「柔道事故」、河出書房新社.
- 7) 尾形敬史、添田孝幸、1979、「柔道に対する意識の研究-1-中学生を対象として」、茨城大学教育学部紀要 教育科学、(28)45-63.
- 8) 尾形敬史、深見則之、1980、「柔道に対する意識の研究. -2-高校生を対象として」、茨城大学教育学部紀要 教育科学、(29)、45-63.
- 9) 金崎良三、橋本公雄、1995、「青少年のスポーツ・コミットメントの形成とスポーツ行動の継続化に関する研究—中学生・高校生を対象に—」 体育学研究、39 (5)、363-376.
- 10) 河崎武夫、白銀茂夫、金芳保之、山根正弘、斉藤 正俊、1974、「柔道のイメージに関する研究」、 武道学研究、7(1):12-13.
- 11) 嘉納治五郎、1983、「柔道家としての私の生涯」、嘉納治五郎著作集第3巻、五月書房. 16.
- 12) 厚生労働省、2003年9月施行、少子化社会対策基本法.
- 13) SSF 笹川スポーツ財団、2002、「スポーツ白書 10代のスポーツライフに関する調査報告書」、青少年のスポーツライフ・データ 2002.
- 14) 全日本柔道連盟、2013、「公認柔道指導者資格制度」.
- 15) 全日本柔道連盟、2020、中長期基本計画 (2020年度～2028年度)、2020年度第4回理事会 (2020.10.22) 決定.
- 16) 全柔連ホームページ、「全日本柔道連盟登録人口推移」、<https://www.judo.or.jp/wp-content/uploads/2019/04/tourokujinkou-suii2019.pdf> (2021.1.7 最終閲覧.)
- 17) 全柔連ホームページ、「全日本柔道連盟アンケート調査」 (2018.11.16) <https://www.judo.or.jp/wp-content/uploads/2019/04/tourokujinkou-suii2019.pdf> (2021.1.7 最終閲覧.)
- 18) 高橋進、1987、「柔道授業が高校生の意識に及ぼす影響について」、関東学園大学紀要、12、107-124.
- 19) 高橋進、貝瀬輝夫、浅野哲男、川島直司、斎藤聡、矢野勝、平野弘幸、濱田初幸、1994、「柔道学習者の柔道に対する意識について」—態度及び原因帰属様式の考察を中心に—、講道館柔道科学研究会紀要第VII巻、195-212.

- 20) 橋本敏明、佐藤宣践、山下泰裕、中西英敏、白瀬英春、柏崎克彦、1990、「大学柔道部員の練習継続意識に関する研究」、武道学研究、23(2):97-98。(口頭発表妙録).
- 21) 橋本敏明、佐藤宣践、白瀬英春、山下泰裕、中西英敏、光本健次、柏崎克彦、1991「高校柔道部員の練習継続意識に関する研究」、武道学研究、24(2):117-118。(口頭発表妙録).
- 22) 藤田武志、矢野博之、1999、「中学校生活と部活動に関する社会学的研究」、東京大学大学院教育学研究科紀要、39.
- 23) 船越正康、2011、「～中学校武道必修化に向けて～」、関西武道学研究、第20巻第1号.
- 24) 麓信義、今若香子、2005、運動体験と運動継続—学校体育は運動継続に役立つか(特集 運動継続)、体育の科学、55(1)、30-37.
- 25) 栃木県教育委員会スポーツ推進課 2017、「平成28年度栃木県中学校・高等学校運動部に関する調査結果について」.

謝辞

本論文の執筆にあたり、終始適切な助言を賜り、また丁寧にご指導して下さった指導教員の間野義之教授には、心から御礼申し上げます。また、副査として研究の細部にわたりご助言をいただいた、射手矢岬教授、澤井和彦准教授、舟橋弘晃先生にも深く感謝申し上げます。

また、アンケート調査実施をご承認いただいた栃木県柔道連盟会長・吉田忠征氏、栃木県中体連柔道専門部長・渡邊康成氏、同専門委員長・大木誠氏、ならびに栃木県高体連柔道専門部長・軽部幸治氏、同専門委員長・吉澤貴志氏にも深く感謝申し上げます。さらに、アンケート調査を快く引き受けていただいた栃木県内の柔道部のある全ての中学校・高等学校の学校長様ならびに柔道部顧問様、そして、アンケートに回答して下さった生徒の皆さまに感謝申し上げます。

また、この一年間、ともに学び、研究を行った同期の皆さま、そして、間野義之ゼミ（スポーツ政策研究室）の皆さま、さらに、OBOGの先輩方には多大なるご協力と励ましをいただきました。皆さまのご協力と励ましがなければ、ここまで来ることはできませんでした。心より感謝の意を表します。

最後に、一年間の学びと研究に理解を示し、支え、応援していただいた家族、友人、関係者の皆さまに深甚なる感謝の意を表し、結びの言葉といたします。ありがとうございました。

卷末資料

資料1 全日本柔道連盟登録人口推移（男女別、中学生・高校生）

全日本柔道連盟登録人口推移 男女計（2003～2019）

区分	2,003	2,004	2,005	2,006	2,007	2,008	2,009	2,010	2,011	2,012	2,013	2,014	2,015	2,016	2,017	2,018	2,019
指導者+役員	32,585	32,025	31,396	32,288	32,206	31,731	31,508	31,494	31,945	32,835	28,304	28,153	20,713	30,087	29,848	29,451	21,654
社会人	20,500	20,530	20,503	19,845	19,721	20,040	20,127	19,508	18,859	19,727	23,203	22,623	20,659	20,152	19,781	18,773	25,853
大学生	12,799	13,684	14,286	14,539	15,366	15,660	15,382	16,013	15,262	15,521	15,379	14,703	14,648	13,879	12,876	12,045	11,227
高校生	38,566	38,432	37,326	35,430	33,021	31,609	30,121	29,484	28,437	27,294	25,807	25,234	23,791	23,347	22,564	21,638	20,232
中学生	51,277	48,485	48,630	48,906	47,781	45,593	42,793	41,254	41,028	39,816	37,963	36,673	35,488	34,500	32,954	30,997	29,149
小学生	48,358	47,512	49,684	49,841	48,816	47,267	45,114	43,709	41,040	38,863	37,513	35,676	35,317	35,271	35,613	34,863	33,730
未就学児	0	1,357	1,204	1,404	1,500	1,428	1,482	1,495	1,375	1,483	1,521	1,435	1,595	1,727	1,731	1,502	1,680
合計	206,088	204,029	205,034	204,259	200,418	195,336	188,536	184,967	179,957	177,551	171,703	166,511	154,226	160,979	157,384	151,287	145,544

全日本柔道連盟登録人口推移 男女計（2003～2019）

区分	2,003	2,004	2,005	2,006	2,007	2,008	2,009	2,010	2,011	2,012	2,013	2,014	2,015	2,016	2,017	2,018	2,019
高校生	38,566	38,432	37,326	35,430	33,021	31,609	30,121	29,484	28,437	27,294	25,807	25,234	23,791	23,347	22,564	21,638	20,232
中学生	51,277	48,485	48,630	48,906	47,781	45,593	42,793	41,254	41,028	39,816	37,963	36,673	35,488	34,500	32,954	30,997	29,149
合計	91,846	88,921	87,961	86,342	82,809	79,210	74,923	72,748	71,476	69,122	65,783	63,921	61,294	59,863	57,535	54,653	51,400

資料2 栃木県柔道連盟登録人口推移 中学生・高校生（2015～2020）

区分	2015	2016	2017	2018	2019	2020
中学生	890	898	825	802	727	623
高校生	421	410	403	393	385	361
合計	1,311	1,308	1,228	1,195	1,112	984

資料3

柔道継続を促す因子群一覧

柔道継続因子	項 目 内 容
柔道入門きっかけ	友達に誘われて 友達の試合を見て 柔道の指導者に勧誘された 近くに柔道場があった
柔道入門動機	体を鍛えて強くなりたかった 心身ともに強くなりたくて 礼儀を身につけるため 自分自身の身を守るため 格闘技に興味があった
柔道愛好	柔道が好き 練習が楽しい もっと強くなりたい
家族支援	家族が応援してくれる 家族との絆
柔道到達目標達成	目標にしている選手がいる 柔道を生かせる職業に就きたい 昇段したい 出場したい大会がある 目指しているタイトルがある 指導者や審判員になりたい 将来性が明確
精神性向上	精神力 忍耐力 積極性 協調性 達成感 礼節
体力向上	心身ともに健康な体 基礎体力・筋力の向上 運動能力の促進 競技技術・技能の進歩
性格	気が強い プレッシャーに強い 負けず嫌い 集中力がある 我慢強い
周囲との融和	指導者との絆 仲間との絆 指導者を尊敬している

問5	柔道を始めた理由について教えてください。 以下の理由に対し、最も当てはまるものの番号に○を付けてください。					
1	柔道漫画の主人公に憧れて	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
2	テレビに出ている有名選手に憧れて	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
3	柔道着姿に憧れて	全くあてはまらない 5	1	2	3	4
4	自分自身の身を守るため	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
5	礼儀(れいぎ)を身につけるため	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
6	体を鍛えて強くなりたかった	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
7	格闘技(かくとうぎ)に興味があった	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
8	心身ともに強くなりたくて	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
9	家族が柔道をやっていた	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
10	家族に勧められたため	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
11	柔道をやっている友達に誘われて	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
12	柔道をやっている友達の試合を見て	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
13	体格が良かったため指導者から勧誘された	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
14	近所に柔道場があった	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
15	ダイエットのため	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
16	体型維持のため	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
17	段位を取得して黒帯になりたかった	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
18	将来進学や就職の役に立つと思った	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5

問6	柔道が続けている理由について教えてください。 以下の理由に対し、最も当てはまるものの番号に○を付けてください。	全く当てはまらない	あてはまらない	どちらでもない	あてはまる	大変あてはまる
1	柔道が好き	1	2	3	4	5
2	練習が楽しい	1	2	3	4	5
3	もっと強くなりたい	1	2	3	4	5
4	指導者を尊敬している	1	2	3	4	5
5	仲間同士の関係が良い	1	2	3	4	5
6	家族が応援してくれている	1	2	3	4	5
7	目標としている選手がいる	1	2	3	4	5
8	目指しているタイトルがある	1	2	3	4	5
9	出場したい大会がある	1	2	3	4	5
10	柔道を活かせる職業(例:警察官、柔道整復師等)に就きたい	1	2	3	4	5
11	既に進学先や就職先で柔道が続けることが決まっている	1	2	3	4	5
12	指導者になりたい	1	2	3	4	5
13	審判員になりたい	1	2	3	4	5
14	柔道場を開業したい	1	2	3	4	5
15	テレビや新聞、雑誌などに出たい	1	2	3	4	5
16	海外で柔道振興に関する仕事がしたい	1	2	3	4	5
17	昇段したい	1	2	3	4	5
18	一度始めたものを途中でやめたくない	1	2	3	4	5

問 7	柔道を通して得たものは何ですか? 以下の理由に対し、最も当てはまるものの番号に○を付けてください。					
1	心身共に健康な体	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
2	基礎体力・筋力が向上した	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
3	運動能力の促進	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
4	競技技術・技能の進歩	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
5	精神力	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
6	忍耐力	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
7	積極性	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
8	協調性	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
9	向上心	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
10	自分に打ち勝つ心(克己心)(こっきしん)	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
11	達成感	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
12	礼節	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
13	責任感	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
14	正義感	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
15	周囲への感謝の気持ち	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
16	仲間との絆	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
17	家族との絆	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
18	指導者との絆	全くあてはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5

問 8	あなたは自分自身をどのような性格だと思えますか？ 以下の理由に対し、最も当てはまるものの番号に○を付けてください。					
1	まじめ	全く当てはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
2	冷静・慎重	全く当てはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
3	優しい・穏やか	全く当てはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
4	気が利く	全く当てはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
5	我慢強い	全く当てはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
6	負けず嫌い	全く当てはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
7	思いやりがある	全く当てはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
8	気が強い	全く当てはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
9	プレッシャーに強い	全く当てはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
10	はっきりしている	全く当てはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
11	さっぱりしている	全く当てはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
12	のんびりしている	全く当てはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
13	気配りができる	全く当てはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
14	頑張り屋	全く当てはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
15	気分屋	全く当てはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
16	集中力がある	全く当てはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
17	飽きっぽい	全く当てはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5
18	人付き合いがいい(社会的)	全く当てはまらない 1	あてはまらない 2	どちらでもない 3	あてはまる 4	大変あてはまる 5

問 9.今後も柔道を続けたいと思いますか? (該当する数字に○をつけてください)

- 1.はい 2.いいえ 3.どちらともいえない(現段階ではわからない)

問 10	問 9.で、2.いいえ、3.どちらともいえない、と答えた方は、今後あなたが柔道を続けるための条件を教えてください。以下の理由に対し、最も当てはまるものの番号に○を付けてください。	全く当てはまらない	あてはまらない	どちらでもない	あてはまる	大変あてはまる
1	進学先の学校、職場に尊敬できる指導者がいれば続けたい	1	2	3	4	5
2	進学先の学校、職場に柔道部があれば続けたい	1	2	3	4	5
3	進学先の学校、職場で柔道部以外の複数の部活動に所属することが可能であれば続けたい	1	2	3	4	5
4	進学先の学校、職場の柔道部が自分の実力にあった、練習環境であれば続けたい	1	2	3	4	5
5	進学先の学校、職場の柔道部が強い選手を育てることを重視する環境であれば続けたい	1	2	3	4	5
6	進学先の学校、職場の柔道部が勝ち負けにこだわらず、皆で楽しく練習できる環境であれば続けたい	1	2	3	4	5
7	進学先の学校、職場の柔道部が遠征や試合等のお金の負担が少ないのであれば続けたい	1	2	3	4	5
8	進学先の学校で「勉強との両立」、職場で「仕事との両立」ができれば続けたい	1	2	3	4	5

アンケートは以上です。回答にもれがないかご確認ください。
ご協力いただき、大変ありがとうございました。

【調査主体】

早稲田大学 スポーツ科学学術院 スポーツ政策研究室

【研究者】

早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科 スポーツクラブマネジメントコース
修士課程 大島 茂 男 指導教員 教授 間野 義之
連絡先 電話 090-1505-1688 メール bto55stbell@yahoo.co.jp

アンケートは、令和2年11月27日(金)までに顧問の先生に提出して下さい。

資料5 アンケート調査結果①

設問5～設問8までの各設問毎の得票数及びその割合

設問	設問5 柔道を始めた理由																	
	1		2		3		4		5		6		7		8		9	
	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%
全く当てはまらない	597	75.5%	446	56.4%	425	53.7%	224	28.3%	189	23.9%	151	19.1%	249	31.5%	178	22.5%	389	49.2%
当てはまらない	97	12.3%	121	15.3%	126	15.9%	80	10.1%	74	9.4%	49	6.2%	88	11.1%	64	8.1%	35	4.4%
どちらでもない	60	7.6%	91	11.5%	116	14.7%	120	15.2%	126	15.9%	95	12.0%	165	20.9%	153	19.3%	37	4.7%
当てはまる	28	3.5%	96	12.1%	97	12.3%	252	31.9%	281	35.5%	287	36.3%	178	22.5%	237	30.0%	101	12.8%
大いに当てはまる	9	1.1%	37	4.7%	27	3.4%	115	14.5%	121	15.3%	209	26.4%	111	14.0%	159	20.1%	229	29.0%

設問	設問5 柔道を始めた理由																	
	10		11		12		13		14		15		16		17		18	
	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%
全く当てはまらない	275	34.8%	462	58.4%	580	73.3%	536	67.8%	426	53.9%	543	68.6%	497	62.8%	338	42.7%	318	40.2%
当てはまらない	69	8.7%	68	8.6%	90	11.4%	87	11.0%	61	7.7%	76	9.6%	94	11.9%	85	10.7%	77	9.7%
どちらでもない	89	11.3%	86	10.9%	80	10.1%	76	9.6%	91	11.5%	83	10.5%	108	13.7%	117	14.8%	137	17.3%
当てはまる	151	19.1%	81	10.2%	22	2.8%	52	6.6%	126	15.9%	52	6.6%	61	7.7%	154	19.5%	158	20.0%
大いに当てはまる	207	26.2%	94	11.9%	19	2.4%	40	5.1%	87	11.0%	37	4.7%	31	3.9%	97	12.3%	101	12.8%

設問	設問6 続いている理由																	
	1		2		3		4		5		6		7		8		9	
	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%
全く当てはまらない	32	4.0%	34	4.3%	20	2.5%	30	3.8%	17	2.1%	24	3.0%	137	17.3%	167	21.1%	143	18.1%
当てはまらない	40	5.1%	57	7.2%	12	1.5%	18	2.3%	12	1.5%	19	2.4%	85	10.7%	94	11.9%	77	9.7%
どちらでもない	141	17.8%	195	24.7%	89	11.3%	125	15.8%	91	11.5%	118	14.9%	200	25.3%	177	22.4%	168	21.2%
当てはまる	296	37.4%	279	35.3%	239	30.2%	231	29.2%	230	29.1%	246	31.1%	166	21.0%	162	20.5%	171	21.6%
大いに当てはまる	282	35.7%	226	28.6%	431	54.5%	387	48.9%	441	55.8%	384	48.5%	203	25.7%	191	24.1%	232	29.3%

設問	設問6 続いている理由																	
	10		11		12		13		14		15		16		17		18	
	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%
全く当てはまらない	226	28.6%	300	37.9%	398	50.3%	438	55.4%	479	60.6%	410	51.8%	459	58.0%	143	18.1%	68	8.6%
当てはまらない	131	16.6%	137	17.3%	154	19.5%	163	20.6%	145	18.3%	140	17.7%	159	20.1%	60	7.6%	49	6.2%
どちらでもない	215	27.2%	233	29.5%	173	21.9%	163	20.6%	142	18.0%	128	16.2%	142	18.0%	184	23.3%	173	21.9%
当てはまる	90	11.4%	44	5.6%	44	5.6%	19	2.4%	18	2.3%	67	8.5%	18	2.3%	219	27.7%	236	29.8%
大いに当てはまる	129	16.3%	77	9.7%	22	2.8%	8	1.0%	7	0.9%	46	5.8%	13	1.6%	185	23.4%	265	33.5%

設問	設問7 柔道を通して得たもの																	
	1		2		3		4		5		6		7		8		9	
	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%
全く当てはまらない	25	3.2%	13	1.6%	17	2.1%	12	1.5%	23	2.9%	23	2.9%	28	3.5%	25	3.2%	21	2.7%
当てはまらない	28	3.5%	8	1.0%	10	1.3%	14	1.8%	24	3.0%	33	4.2%	37	4.7%	26	3.3%	19	2.4%
どちらでもない	98	12.4%	46	5.8%	90	11.4%	101	12.8%	134	16.9%	136	17.2%	219	27.7%	180	22.8%	159	20.1%
当てはまる	340	43.0%	308	38.9%	317	40.1%	326	41.2%	305	38.6%	292	36.9%	286	36.2%	319	40.3%	329	41.6%
大いに当てはまる	300	37.9%	416	52.6%	357	45.1%	338	42.7%	305	38.6%	307	38.8%	221	27.9%	241	30.5%	263	33.2%

設問	設問7 柔道を通して得たもの																	
	10		11		12		13		14		15		16		17		18	
	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%
全く当てはまらない	28	3.5%	14	1.8%	12	1.5%	21	2.7%	25	3.2%	11	1.4%	10	1.3%	338	42.7%	25	3.2%
当てはまらない	35	4.4%	19	2.4%	11	1.4%	27	3.4%	25	3.2%	11	1.4%	14	1.8%	85	10.7%	26	3.3%
どちらでもない	180	22.8%	97	12.3%	103	13.0%	140	17.7%	210	26.5%	96	12.1%	79	10.0%	117	14.8%	163	20.6%
当てはまる	315	39.8%	302	38.2%	288	36.4%	337	42.6%	289	36.5%	307	38.8%	275	34.8%	154	19.5%	276	34.9%
大いに当てはまる	233	29.5%	359	45.4%	377	47.7%	266	33.6%	242	30.6%	366	46.3%	413	52.2%	97	12.3%	301	38.1%

設問	設問8 自分自身の性格																	
	1		2		3		4		5		6		7		8		9	
	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%
全く当てはまらない	132	16.7%	101	12.8%	49	6.2%	68	8.6%	58	7.3%	33	4.2%	31	3.9%	71	9.0%	209	26.4%
当てはまらない	146	18.5%	176	22.3%	79	10.0%	107	13.5%	111	14.0%	70	8.8%	55	7.0%	132	16.7%	242	30.6%
どちらでもない	270	34.1%	277	35.0%	262	33.1%	338	42.7%	252	31.9%	181	22.9%	241	30.5%	280	35.4%	205	25.9%
当てはまる	179	22.6%	180	22.8%	263	33.2%	198	25.0%	256	32.4%	233	29.5%	328	41.5%	172	21.7%	81	10.2%
大いに当てはまる	64	8.1%	57	7.2%	138	17.4%	80	10.1%	114	14.4%	274	34.6%	136	17.2%	136	17.2%	54	6.8%

設問	設問8 自分自身の性格																	
	10		11		12		13		14		15		16		17		18	
	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%	得票数	%
全く当てはまらない	74	9.4%	73	9.2%	49	6.2%	48	6.1%	53	6.7%	48	6.1%	69	8.7%	66	8.3%	44	5.6%
当てはまらない	149	18.8%	135	17.1%	83	10.5%	71	9.0%	88	11.1%	84	10.6%	117	14.8%	125	15.8%	66	8.3%
どちらでもない	302	38.2%	361	45.6%	237	30.0%	347	43.9%	305	38.6%	232	29.3%	289	36.5%	227	28.7%	264	33.4%
当てはまる	151	19.1%	134	16.9%	241	30.5%	234	29.6%	247	31.2%	254	32.1%	227	28.7%	211	26.7%	238	30.1%
大いに当てはまる	115	14.5%	88	11.1%	181	22.9%	91	11.5%	98	12.4%	173	21.9%	89	11.3%	162	20.5%	179	22.6%

資料5 アンケート調査結果②

設問5～設問8までの各設問毎の「当てはまる」割合及び順位																		
設問	設問5 柔道を始めた理由																	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
「当てはまる」「大いに当てはまる」の得票割合	4.7%	16.8%	15.7%	46.4%	50.8%	62.7%	36.5%	50.1%	41.7%	45.4%	21.2%	5.0%	12.0%	26.7%	11.3%	11.7%	32.2%	32.4%
全18問中の順位	18	12	13	4	2	1	7	3	6	5	11	17	14	10	16	15	9	8
設問	設問6 続けている理由																	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
「当てはまる」「大いに当てはまる」の得票割合	73.1%	63.8%	84.7%	78.1%	84.8%	79.6%	46.6%	44.6%	50.9%	27.7%	15.3%	8.3%	3.4%	3.2%	14.3%	3.9%	51.1%	63.3%
全18問中の順位	5	6	2	4	1	3	10	11	9	12	13	15	17	18	14	16	8	7
設問	設問7 柔道を通して得たもの																	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
「当てはまる」「大いに当てはまる」の得票割合	80.9%	91.5%	85.2%	83.9%	77.1%	75.7%	64.1%	70.8%	74.8%	69.3%	83.6%	84.1%	76.2%	67.1%	85.1%	87.0%	31.7%	72.9%
全18問中の順位	8	1	3	6	9	11	17	14	12	15	7	5	10	16	4	2	18	13
設問	設問8 自分自身の性格																	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
「当てはまる」「大いに当てはまる」の得票割合	30.7%	30.0%	50.7%	35.1%	46.8%	64.1%	58.7%	38.9%	17.1%	33.6%	28.1%	53.4%	41.1%	43.6%	54.0%	39.9%	47.2%	52.7%
全18問中の順位	15	16	6	13	8	1	2	12	18	14	17	4	10	9	3	11	7	5

資料6 アンケート調査結果（問9）

今後の柔道継続の意思	高校			中学校			横計 (総計)	
	男子	女子	計	男子	女子	計		
はい	106	11	117	153	49	202	319	40.3%
いいえ	34	28	62	46	36	82	144	18.2%
どちらとも言えない	104	37	141	124	63	187	328	41.5%
縦計	244	76	320	323	148	471	791	100.0%
	30.8%	9.6%	40.5%	40.8%	18.7%	59.5%	100.0%	

資料7 アンケート調査結果（問10）

問9で「いいえ」「どちらとも言えない」と答えた者の柔道継続因子の集計（全体）																	
柔道継続因子	今後の柔道継続の意思																
	「いいえ」回答群								「どちらとも言えない」回答群								
	1	2	3	4	5	左記4.5計	左記の割合	左記の順位	1	2	3	4	5	左記4.5計	左記の割合	左記の順位	
進学先に尊敬できる指導者がいる	80	24	23	11	6	17	1.5%	4	44	51	134	81	18	99	3.9%	4	
進学先に柔道部がある	83	33	19	6	3	9	0.8%	7	39	61	144	65	19	84	3.3%	6	
進学先で複数の部活に所属可能	85	24	20	10	5	15	1.3%	5	60	68	145	42	13	55	2.2%	7	
自分の実力にあった練習環境	75	22	25	17	5	22	1.9%	3	36	45	129	92	26	118	4.7%	3	
強い選手を育成することを重視	92	27	18	4	3	7	0.6%	8	58	71	151	41	7	48	1.9%	8	
勝ち負けではなくみんなで仲良く練習できる環境	68	13	25	27	11	38	3.3%	1	19	41	114	106	48	154	6.1%	1	
お金の負担が少ない	85	23	23	9	4	13	1.1%	6	45	45	45	45	45	90	3.6%	5	
勉強や仕事との両立	79	15	27	13	10	23	2.0%	2	29	42	121	88	48	136	5.4%	2	
縦計	647	181	180	97	47	144			330	424	983	560	224	784			
	56.2%	15.7%	15.6%	8.4%	4.1%	12.5%			13.1%	16.8%	39.0%	22.2%	8.9%	31.1%			
問9で「いいえ」「どちらとも言えない」と答えた者の柔道継続因子の集計（高校）																	
柔道継続因子	今後の柔道継続の意思																
	「いいえ」回答群								「どちらとも言えない」回答群								
	1	2	3	4	5	左記4.5計	左記の割合	左記の順位	1	2	3	4	5	左記4.5計	左記の割合	左記の順位	
進学先に尊敬できる指導者がいる	38	6	10	6	2	8	1.6%	4	26	32	52	23	8	31	2.7%	6	
進学先に柔道部がある	39	12	7	3	1	4	0.8%	6	21	29	48	32	11	43	3.8%	4	
進学先で複数の部活に所属可能	42	8	10	2	0	2	0.4%	7	30	38	57	12	4	16	1.4%	7	
自分の実力にあった練習環境	39	6	8	7	2	9	1.8%	3	18	26	48	41	8	49	4.3%	3	
強い選手を育成することを重視	42	11	8	1	0	1	0.2%	8	29	39	58	12	3	15	1.3%	8	
勝ち負けではなくみんなで仲良く練習できる環境	35	4	8	10	5	15	3.0%	1	12	22	48	41	18	59	5.2%	2	
お金の負担が少ない	39	7	9	5	2	7	1.4%	5	18	23	63	28	9	37	3.3%	5	
勉強や仕事との両立	37	6	9	4	6	10	2.0%	2	12	17	50	41	21	62	5.5%	1	
縦計	311	60	69	38	18	56			166	226	424	230	82	312			
	62.7%	12.1%	13.9%	7.7%	3.6%	11.3%			14.7%	20.0%	37.6%	20.4%	7.3%	27.7%			
問9で「いいえ」「どちらとも言えない」と答えた者の柔道継続因子の集計（中学校）																	
柔道継続因子	今後の柔道継続の意思																
	「いいえ」回答群								「どちらとも言えない」回答群								
	1	2	3	4	5	左記4.5計	左記の割合	左記の順位	1	2	3	4	5	左記4.5計	左記の割合	左記の順位	
進学先に尊敬できる指導者がいる	42	18	13	5	4	9	1.4%	5	18	19	82	58	10	68	4.5%	4	
進学先に柔道部がある	44	21	12	3	2	5	0.8%	8	18	32	96	33	8	41	2.7%	6	
進学先で複数の部活に所属可能	43	16	10	8	5	13	2.0%	2	30	30	88	30	9	39	2.6%	7	
自分の実力にあった練習環境	36	16	17	10	3	13	2.0%	2	18	19	81	51	18	69	4.6%	3	
強い選手を育成することを重視	50	16	10	3	3	6	0.9%	6	29	32	93	29	4	33	2.2%	8	
勝ち負けではなくみんなで仲良く練習できる環境	33	9	17	17	6	23	3.5%	1	7	19	66	65	30	95	6.4%	1	
お金の負担が少ない	46	16	14	4	2	6	0.9%	6	27	23	91	34	12	46	3.1%	5	
勉強や仕事との両立	42	9	18	9	4	13	2.0%	2	17	25	71	47	27	74	4.9%	2	
縦計	336	121	111	59	29	88			164	199	668	347	118	465			
	51.2%	18.4%	16.9%	9.0%	4.4%	13.4%			11.0%	13.3%	44.7%	23.2%	7.9%	31.1%			